

令和2年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和2年11月13日(金) 14時00分～15時15分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 会長 吉村維元 (敬称略)
副会長 靱山昌夫 (敬称略)
委員 林孝之、阿部満佐子、内田尚子、難波修三 (敬称略)
事務局 平井社会教育部長、草薙美術館顧問 (美術館特別館長)、戸塚館長、
勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員、所館長代理兼管理担当長

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 社会教育部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 平塚市美術館協議会について
- 6 議題
 - (1) 令和2年度事業について
 - ① これまでの事業報告 (事務局から説明)
 - 新型コロナウイルス感染症対策
 - 作品
 - 展覧会
 - 教育普及
 - 教育委員会の点検評価の結果
 - 施設利用者等の統計
 - ② 今後の事業予定 (事務局から説明)
 - 展覧会
 - 教育普及
 - その他の事業
 - (2) その他
- 7 閉会

■社会教育部長あいさつ

委員会開催にあたり、平井社会教育部長から挨拶があった。

■議題及び質疑

- (1) 令和2年度事業について
 - ① これまでの事業報告
 - ◆当館の新型コロナウイルス感染症対策等について事務局から説明。
 - ◆令和2年10月までの展覧会事業、教育普及事業について、新型コロナウイルス感染症により中止となったものも含め、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。
 - ◆教育委員会の点検評価 (令和元年度事業) の結果について事務局から説明。
 - ◆施設利用者等の統計の内容を事務局から説明。
 - ② 今後の事業予定について

- ◆今後の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の内容等を事務局から説明。
- ◆その他の事業の内容等を事務局から説明。

(質疑)

◆コロナ禍事業展開について

委員 冒頭の説明で、コロナの緊急対策等で展覧会が中止となり執行しなかった予算があったということだった。臨時休館により例年どおりの美術館運営ができなかった時期にウェブ上に新規にデジタルコンテンツやオンラインワークショップを立上げ、その数を増やしているということか。

事務局 新型コロナウイルス感染症の蔓延拡大がすすむなかで、市全体としてコロナ対策に集中する必要があり不要不急の事業や過大な予算事業は見直すこととなった。

一方で、当初予定していた企画展を開催すると多くの観覧者が来場することが見込まれることから、その当時は感染症対策をしながら来館者をコントロールすることが難しいと考えられたことや、新型コロナウイルス感染症の影響により借用予定の作品の移動も難しくなったことから企画展を中止することに至ったということも歳出予算の減につながった。

また、デジタルコンテンツについて、令和元年度ロビー展が会期中途の3月に中止となった際、出品作家の協力により作家本人による作品や鍛金技法等の解説の動画を制作し、動画配信サイトに上げたことがきっかけとなった。

そこからコロナ禍で外出もできない状況で、美術館の中から視点を変えて何か発信していこうということで教育普及スタッフを中心に『おうちで美術を楽しもう！』と銘打ち、動画のほか、すごろく、ワークシート等のウェブコンテンツをコツコツと配信し始めた。これらについては、材料費や講師謝礼等の経費はかかっているが、既存予算を活用しており特別に予算を割いて行っているものではない。

委員 今後も以前のような状況に完全復活することは見通せない状況で、コロナ策が優先されるなかで市側から美術館へのお金の使い方について、制限をかけることなく、柔軟に十分に活用できることを望みたい。

デジタルコンテンツを一生懸命やられているのであれば、今後の状況を見据えるともっともっと充実させていくべきだし、こういった形での魅力の発信がひいては観覧者や美術館のファンの獲得につながっていくのではないか。

このような新たな事業に対して、柔軟にまた十分に活用できるような体制が整えられるべきだし、そうなっていくことを望んでいる。

デジタルコンテンツは他の美術館でもおこなっているが、非常に興味深い。ただ見たところ、美術館のスタッフの方がもともと（ウェブコンテンツの）専門でないにも関わらず、一生懸命努力されているように見受けられる。その辺をもっと充実、分厚く、資金面でも、いろいろな意味で支えてもらえるとよいのではと感じる。

事務局 これからの美術館は展覧会だけでなく、教育普及分野を今後も充実させていくべきだと考えている。当館でもこれまで、さまざまな取組をおこなってきたが、今後も充実できるよう努力していきたい。

◆全体を通じて

委員 自分も美術に関わっている身なので、この状況で活動に取り組まれている方々の苦労がよくわかる。どうしても事業の評価がどうしても人数で設定される一方で、コロナで密になるので、人は入れてくれるなということになる。この状況に応じて、展覧会等々の企画の実現は難しくなり、予算執行も厳しくなると推察するが、今後の活動が委縮せずに行えるよう期待したい。

事務局 現在は、県外から作品を借りるのが難しいので所蔵品を活用した展示をしていくのだが、このときこそ学芸員たちが当館の所蔵品で面白い展覧会を考える、或いは、いままで出品されていないような収蔵庫の隅で陽の目を見なかった作品を活用して意義のある展覧会を開催していければと考えている。

また、教育普及のスタッフは非常勤職員であるが、彼らは経験もあり、ゆくゆくは彼らの企画で展覧会ができたかと考えている。どうしても展覧会を行う学芸員は決まりきったことを考えがちだが、当館の展覧会が変わってくれればと考えている。

事務局 ピンチ、ピンチと言っても仕方がないので、大変だけれどもステップアップしてチャンスに変えていきたい。

数の評価で言えば、資料には動画再生回数を記載しており、沢山の方々が動画を観ていただいていることがわかる。このように目に見える数値の大変励みになるし、こういう時期に苦しいながらも、情報発信していきピンチをチャンスに変えていけるような活動していきたいと考えている。

是非委員の皆さまにも何かいいお考えがあれば、教えていただきながらすすめていきたい。

委員 実際、学校でも4月から9月までは校内に入ることは出来ず、学生たちは自宅で遠隔で講義ばかりでなく実習の授業も受けていた。実習事業は対面で行いたいということで9月末に特別に願い出をし、一部入校を許可がおりた学生たちが実習系の授業を受けている。やはり楽しそうにいきいきと授業を受けている。そのメリハリがあって、自宅で授業を受けていることから春学期に調子のよくなかった学生が対面で実習を受けることが刺激となり、遠隔の授業もよくなっていくという好循環が現れてきている。

やはり、学生に限らず本物に触れたいという欲求は誰しもある。今後、美術館が提供するアートの経験がただ単に量ではなく、数ではなく1個1個の質が評価されるようなスケール、あるいはそれを理解して応援するような体制や風潮が醸し出されていくとますますチャンスに代わっていくのだろうと身近に感じている。

(2) その他

なし。

■閉会

館長より閉会を告げた。

次回は令和3年3月に開催予定。

以上